

I 実践

1 研究主題

差別や偏見をなくす人権尊重の精神を養い、一人一人が互いに認め合い、助け合うことのできる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は、「やさしく さとく たくましく 共に輝く大みかっ子の育成」を教育目標として掲げている。学校教育全体を通して人権尊重の精神を高め、差別や偏見をもたずに誰に対しても公平にふるまう生活態度を育てるため学校を挙げて取り組んでいる。また、各教科・道徳・特活などの特質に応じた教育活動全体を通して、人権が尊重され安心して過ごせる学校・教室を目指し、地域の教育力の活用や体験的な活動の導入、学習形態の工夫に努めている。

本校の児童は、明るく素直であり、思いやりのある言動が多く見られる。しかし、自己中心的な行動や他者の考えや気持ちを受け入れられず思いやりに欠けた言動をする児童もいる。

そこで、学校の教育活動全体を通して、一人一人が互いを認め合い、思いやりの心をもって助け合うことのできる児童の育成を本主題として設定した。

(2) 研究の内容

ア 特別活動、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実

イ 豊かな体験活動の展開

2 実践内容

(1) 特別活動、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間を中心とした全教育活動における人権教育の充実

ア 道徳の授業の公開と情報モラル研修会

学校公開日に、全クラスで道徳の授業を公開している。担任は児童の心を豊かにするため、実態に応じた題材を設定し、よりよい授業展開の工夫を図っている。保護者が参観することで、児童への担任の思いや考えを共感し合うことができる。同日には、高学年と保護者が参加した情報モラル研修会も行った。インターネットによる人権侵害等の事例をもとに、どう行動すればよいのか親子で学習した。

イ 特活や外国語活動、総合的な学習の時間等の実践

(ア) 4年生

a 「レッツ トライ ボランティア」

高齢者や体の不自由な人の生活について学んでいる。社会福祉協議会の講師を招いて、車いすやアイマスク体験、盲導犬についての学習を行い、「自分ができるボランティアは何か」考えることができた。



b 「命の教育」

助産師の方を講師に招いて、人の誕生の仕組みや命の大切さについて、保護者と共に学んだ。乳児（人形）を抱く体験や聴診器を使って自分の心臓音を聴く等を通して、命の尊さを肌で感じる事ができた。

(イ) 5年生・6年生

a 「ワールドキャラバン」

県内在住の外国人講師に母国の紹介をしてもらい、他国の文化への理解を深めた。また、日本人講師による開発途上国への理解を深めるためのロールプレイも行った。



b 「人権メッセージ」

児童一人一人が人権について考える時間として、人権メッセージに取り組む時間を設定した。児童の書いた人権メッセージには、自分が言われてうれしかった言葉や社会の中の差別等について書かれていた。児童が人権を自分の問題として考える時間となった。

(ウ) 外国語活動

全学年で行っている外国語活動では、外国語の学習を通して、その言葉や文化について体験的に理解し、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てている。

ウ 帰りの会での友達への称賛

帰りの会では、各学年が実態に応じ、「ぼかぼかニュース」など、友達の良かったところや頑張ったところを発表する時間を設定している。

エ 異学年集団との交流（縦割り遊び・縦割り読み聞かせ・縦割り清掃）

毎月第3木曜日のロングの昼休みを利用し縦割り遊びを実施している。高学年による読みかせも実施した。年間2回、各回約1か月ずつ縦割り清掃も行なっている。どの活動においても6年生を中心に、異学年のメンバーが協力して活動する姿が見られた。上級生も下級生も互いにより影響を与えている。

オ あいさつ運動

集会委員会を中心として、全学年であいさつ運動に取り組んでいる。今年度は、毎月各学級1名ずつ「あいさつ名人」を選び全校朝会で表彰する等した結果、自分からあいさつする児童が増えたきた。

カ 募金活動

全学年で、誰でもできるボランティアとして赤い羽根共同募金活動に取り組んだ。今年度も、自分たちの住む町のために多くの募金が集まった。

(2) 豊かな体験活動の展開

ア ふれあい給食（1・3年生）

地域の方を招き、ランチルームで給食を食べる機会を設けた。今年度は、日頃の感謝の気持ちを込めて合唱でもてなした。昔話や学校生活などの話をしながら一緒に時間を過ごすことで、自分たちが地域の方々に見守られていることに気付く良い機会となっている。

イ 昔遊び体験（1年生）

地域の方を講師に招き、昔遊び集会を実施している。地域の幼稚園児も迎えて行うので、1年生が幼稚園児の世話をする等して1年生の自己有用感につながっていった。

ウ 大みか交流センター敬老会

毎年9月に行われている大みか交流センター敬老会では、3年生の児童が参加し音楽の発表を行って地域の方と交流している。今年度は、歌とリコーダー演奏を行った。児童が書いた地域の方々に贈る手紙も、地域の方にたいへん喜ばれた。

エ 愛校作業

皆遊タイム（ロングの昼休み）を利用し校庭の清掃や花壇の手入れを行っている。学年単位で活動を分担している。学校をきれいにしようと協力する姿が見られた。また、季節ごとに、色とりどりの花を花壇に咲かせることができた。



3 成果

様々な活動を通して、児童は自分の大切さと他の人の大切さについて学ぶことができた。特に、異学年や地域の人々との交流、外部講師による講話等は、他者のことを考えるよい機会となった。

II 今後の課題

- ・人権について考える場や体験活動をさらに充実させて、自己や他者を大切にする人権感覚を育て、日々の学校生活の中で実践できる児童の育成を図っていきたい。
- ・家庭・地域への啓発をさらに充実させて、学校・家庭・地域が一体となり人権教育に取り組めるように努めたい。